

第2学期始業式式辞

皆さん、おはようございます。有意義な夏休みを送ることができましたか。部活動や補習等で忙しかったという人もいるでしょうが、今日からは気持ちを切り替えて新学期に臨みましょう。

さて、今日は、グローバリズムとローカリズムという二つの言葉を通して、これからの私たちの生き方在り方を考えてみたいと思います。

ちなみに、グローバリズムは、「経済、政治、文化などを地球規模で拡大させる考え方や姿勢のこと」を指します。これと似通った言葉に、インターナショナリズムがあり、「それぞれの国家やその国の文化を肯定しつつ、諸国家間、諸民族間の協力、共栄を図ろうとする考え」を指します。インターナショナリズムは、国や国境を前提とするのに対し、グローバリズムはそれらを前提としない点で異なります。次に、ローカリズムは、「自分が生まれ育ち住んでいる国や地域を第一とする考え方・思想のこと」を指します。

今の説明を聞くと、両者は対立関係にあると思われるかもしれませんが、しかし、そう単純に割り切ることはできません。グローバル化・情報化の進んだ社会では、国境を超えて、人、モノ、お金、情報などが行き交います。特に、インターネットが普及してからは、世界中のどこにいても瞬時に様々な情報を取得できるようになりました。さらに、現在では電子決済が導入され、お金の使い方や金融関係にも変化がみられます。

グローバル化の進んだ社会では、多国籍企業が世界各地

に進出し、経済活動が活発になります。また、欧米を中心とした政治や文化が広まり、世界の一体化が加速します。

このような話を聞くと、グローバル化の進んだ社会はバラ色で、良いことばかりだと思うかもしれませんが、しかし、そうとばかりは言えないことが明らかになっています。

たしかに、グローバル化が進んだ社会では、経済活動が活発になり、人々の生活が豊かになります。しかし、それは先進国など、一部の国だけであり、先進国と他の国との経済格差はますます拡大しています。また、一部の大企業に富が偏る、という現象はどの国でも起こっており、国民間の経済格差も大きくなっています。

加えて、ウクライナとロシアの戦争のように、国や地域間の紛争も増えており、それが世界の政治や経済に大きな影響を及ぼしています。また、地球温暖化や環境破壊、飢餓、貧困といった問題の解決は、待ったなしの状況です。

そういった混迷を深める社会において、最近、ローカリズムの考え方が見直されています。たとえば、企業や人口の集中する都市部を離れて、地方で生活することを選択する人が増えたり、地方から社会を変えていこうという動きが生まれたりしています。

一方、国内においては、少子高齢化に伴う人口減少や地域社会の衰退、都市への人口集中が進んでいます。愛媛県、特に南予地方は、少子化・高齢化が著しく、本校のある八幡浜市もその問題に直面しています。そのため、行政機関や民間等が連携・協力し、これらの問題解決に向けて様々な取組を行っています。

この地域で生活する皆さんにとっても、この問題は他人ごとではありません。かといって、その解決策がすぐに浮かぶわけでもありませんし、高校生にできることは限られ

ています。ただし、これまで述べてきたグローバルズムとローカリズムを結び付けて考えれば、皆さんにもできることがあるはずです。

世界や地球という範疇では、あまりにも対象が大きすぎて躊躇してしまう人がいるかもしれません。しかし、皆さんが生活している地域であれば、身近な問題として、いろいろなことを考えることができるのではないのでしょうか。

たとえば、環境問題や地球温暖化の問題についても、自宅や学校で節電や節水をしたり、環境に負荷を与えない品物を購入したりすることで、その解決に寄与することができます。また、グローバルズムの進展は、国や国境の垣根を超えて、人やモノの移動を活発にしています。それを好機と捉え、地方の良さを国内外に発信したり、新しい産業の創出につなげたりすることも可能です。

ピンチをチャンスに変える、という言葉が耳にすることがあります。危機的状況を悲観的にみるか、それとも大きく変われる機会と捉え、楽観的にみるか。そこには、大きな違いがあります。自分の視点や見方を変えれば、問題の解決策が見つかりますし、将来の可能性も広がります。

「これは無理」といって最初からあきらめるのではなく、「何か自分にできることはないか」とその解決策を考え、行動に移す。それは、本校が指導目標に掲げる「主体的に考え、行動する生徒の育成」にもつながります。

「シンク・グローバリー、アクト・ローカリー」。地球規模で考え、足元から行動しましょう。皆さんの一歩が、地域を活性化し、社会を豊かにします。

以上で、私の話を終わります。